

# 感動の場

『大白鳥』  
1978年 小川原 脩 画



縦162センチ、横130センチの大きな画面に描かれた白鳥たちの姿は、まるで目の前にいて、羽ばたく音まで聞こえそうな臨場感があります。しなやかな肉体、柔らかな羽毛、駆け出す動き。濃紺から灰白にいたる寒色のグラデーションを背景に、凜とした空気をまといながら、白鳥の細部ひとつひとつが丁寧に描かれています。

小川原は動物をよく描いた画家で、1960年代後半からはデフォルメされた馬、70年代には群れる犬が、それと同時に大白鳥も対象となりました。白鳥がモチーフである代表作には「男と白鳥」(1939年、北海道立近代美術館蔵)がありますが、これは神話をもとにした神様の化身、空想の鳥として描かれています。一方、本作は、毎年春に倶知安にも訪れる渡り鳥「オオハクチョウ」が題材です。大きな軀を広げ、群れで飛び立つ様のなんと力強い事。そうすると手前の一羽の様子が気になります。どうして一緒に飛び立たないのか、なぜ顔を背けているのか。小川原の長年のテーマ〈個と群れ〉が本作にも表れているようです。10月16日からの展覧会で展示予定です。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

## —マダラコウラナメクジ、はびこる—

秋が深まるにつれ目にする機会の増えるキノコですが、倶知安町周辺では数年前から、何者かにかじられたキノコがよく目立つようになりました。

これらはヨーロッパ原産の外来ナメクジ、マダラコウラナメクジの仕業であることがほとんどです。ヒョウ柄のような模様が特徴的なナメクジで、体長は最大20センチ近くまで成長し、寿命は3年ほどと考えられています。北海道で初めて確認されたのは2012年のことで、今ではかなりの地域に広がっていると考えられています。

町内の生息密度の高い場所を夜に歩くと、ほんの短い時間に倒木や落ち葉、木の幹、キノコの上などでマダラコウラナメクジや、彼らが這った後のテラテラ光る粘液の道を見つけることができます。食性は雑食で、他のナメクジを捕食する習性も持っているため、在来のナメクジを駆逐してしまうのではないかと心配されています。また、農作物に被害を及ぼす例もあり、これから身近なところでも被害が増えてくるかもしれません。

ちなみに、マダラコウラナメクジ自体に毒は無いとされていますが、寄生虫などを媒介しているケースも報告されており、注意が必要です。ナメクジ本体や粘液に触れてしまった時は、その手で目や口を触らないようにして、よく手を洗いましょう。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

# ふるさと探訪

462回



▲キノコを食べるマダラコウラナメクジ

## 展覧会のお知らせ

### ■第1展示室

第63回「麓彩会展」

1958年、小川原脩をはじめとする8人の発起人により創設された「麓彩会」。小川原が「地方文化の苗床」として位置付けた麓彩会展は今年で63回目を迎えます。地域にゆかりが深い作家、また、この地域に根差して創作活動を展開する作家の最近作など、多彩な美術を紹介します。

会期：10月16日(土)～令和4年1月16日(日)

### ■第2展示室

小川原脩・谷口一芳 二人展「仲間たちへのオマージュ」

小川原作品とともに、当館に所蔵される谷口一芳（1919-2013）作品を紹介します。一芳さんは、野鳥や自然保護への強い関心から、専ら鳥を題材とし、鳥への畏敬、愛慕、賛歌を込め、自然との共生、深奥幽玄の世界を追求。麓彩会展にも第9回展（1967）より参加。この倶知安の地で交流を深め、それぞれに動物たちへの想いを絵画へと込めた画家二人の作品をご覧くださいます。

会期：10月16日(土)～令和4年2月13日(日)

## アート・イベントのお知らせ

### ■ギャラリートーク「小川原脩と谷口一芳」

日時：10月16日(土)14時～14時30分 会場：第2展示室（無料）  
お話し：沼田 絵美（学芸員）

### ■土曜サロン

世界のグレートアーティスト(16)「ル・ナン兄弟 農民画の先駆者」

日時：10月23日(土)14時～15時 会場：映像ルーム（無料）

お話し：柴 勤（館長）

京都逍遙(4)「典雅なる都の西(洛西・三尾)」

日時：10月30日(土)14時～15時20分 会場：映像ルーム（無料）

お話し：柴 勤（館長）

### ■金曜ナイトサロン

「美術館でフランス語～ゼロからの旅立ち⑬・⑭」

日時：⑬10月22日(金) ⑭10月29日(金) 各18時～19時

会場：映像ルーム（無料）お話し：柴 勤（館長）

定員：5名程度（要予約）

## 倶知安風土館イベントのお知らせ

### ■寺子屋ミュージアム（小中学生向けイベント）

「作ろう！知ろう！ニセコ連峰②」

石こうでニセコ連峰のミニチュアを作ってペイントしながら地形や自然について学びます。今回はチセヌプリ～白樺山周辺。

日時：10月23日(土)13時～16時30分 定員：10名（要予約・先着順） 場所：風土館

講師：古市 竜太さん（マウンテンガイド・コヨーテ主宰） 参加費：300円/1個（1人2個まで）

### ■ふるさと探訪（観察会）「冬空舞うガを観察しよう」

冬が近づくにつれ現れる不思議なガ、「フユシャクガ」の仲間を旭ヶ丘公園で探します。

日時：10月30日(土)9時～13時 定員：8名（要予約・先着順） 集合場所：旭ヶ丘公園

講師：小田桐 亮（風土館学芸員） 参加費：250円（保険代）

# ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)

高校生 300円(200円)

小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

10月の休館日 毎週火曜日

美術館：1日～15日

（収蔵庫のくん蒸処理作業、

展示替えのため）

風土館：1日、2日（資料整理のため）

## 美術館はお暇？

どの美術館でもそうですが、展覧会と展覧会の間には休館日が設けられています。それをさして、「美術館の仕事は休みが多くていいね」と言われることが何と多いことか。

しかし、それは大いなる誤解なのです。この休館は、前の展示の撤去作業、次の展示の準備のためであり、この間、スタッフは、いわば肉体労働を凝縮したような日々を送ることになるのですから。

そして、今月はそこに「くん蒸」の期間が加わります。カビと虫に効果がある特殊な薬剤を用い、長い時間をかけて収蔵庫の中を徹底的に消毒するのです。これは作品を少しでも長く保存し、次の時代に伝えるためには不可欠な作業です。どうぞ、皆さんの温かなご理解を！

館長 柴 勤